

【基本施策の目的】


地域住民みんなが支え合って共に生きるという共通認識を持ち、地域で安心して暮らすことができる環境・仕組みを整えます。

【基本施策の今後の優先度】

判定区分	基本施策における課題の状況及び対応策
大	<p>今後の超高齢社会、人口減少などを見据え平成28年6月2日に「ニッポン一億総活躍プラン」が閣議決定され、子ども・高齢者・障がい者などすべての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り高め合うことができる「地域共生社会」の実現が掲げられた。</p> <p>この地域共生社会の実現に必要なとってくるのが地域包括ケアシステムの構築であり、そのためには地域力(住民だけの力ではなく、福祉や医療の専門職や企業などが関わっていくことを含めた力)を高めていくことが必要となる。</p> <p>地域福祉については、医療、保健、介護、障がい、子育てなど各分野を支え、包括的支援の動きをつけていく分野であり、これまでの取り組みにより、地域包括ケアシステムのベースは徐々に確立できていると考えているが、地域包括ケアシステムの構築・深化という点では、更なる時間を要することから、関わる職員の人数や時間も含め経営資源の配分の優先度は高いと判断した。</p>



【指標の分析】



指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、今後の対応
地域福祉活動に参加している市民の割合	%	実績	15.9	15.5	15.5	16.1	33.4	<p>指標の値は、全体として目指す方向性のおり増加傾向にある。その主な原因は、毎年実施している『ふくし座談会』などの効果や平成29年度に地域支え合い推進員を増やし(2名から4名)、地域福祉活動の支援をきめ細やかに実施したことなどによるものと考えている。</p> <p>このことについては、ふれあい・いきいきサロン数の増加などのデータからも裏付けられる。また、平成29年度に指標値が大幅に増加した理由は、市民意識調査の設問において、「地域福祉活動」をイメージしやすくするため活動の例示を表示した事が、主な要因と考える。</p>	<p>今後の指標値の見通しであるが、市民意識調査等によると、地域福祉活動に関心がある、機会があれば参加したいという方の割合が高いことなどから増加傾向で推移すると予想する。</p> <p>引き続き、小牧市社会福祉協議会の地域支え合い推進員と連携を図りながら、地域協議会や自治会などで『ふくし座談会』などを開催し、住民主体による支え合い活動の必要性の意識の醸成を図り、福祉の担い手養成講座等を通して地域福祉活動の支援を行い指標の改善を図っていく。また、地域福祉活動の担い手として期待が高まる団塊シニア世代を対象に、地域福祉活動の担い手として活躍できる環境づくりを進めることなどにより、更なる指標の改善を図っていく。</p>
		目指す方向性							


地域で支え合って安心して暮らしている市民の割合	実績	61.1	58.0	56.3	57.3	59.0	指標の値は、基準値を下回っているものの、平成27年度からは目指す方向性のおり増加傾向にある。 65歳以上から指標値は60%を、70～74歳では70%を超えており、若年・壮年に比して高齢の方に「支え合い」の実感が得られていることが伺える。高齢化に伴い支援が必要な方が増加する中で、地域の居場所(サロン)や認知症カフェの増加など支え合いの活動が増加していることから数値が増加してきたと考える。	今後の指標値の見通しであるが、地域との関係の希薄化が進む一方、自治会などでの災害時の要支援者名簿を活用した助け合い活動などの動きが広がりをを見せているので、微増傾向で推移すると予想する。 今後の対応であるが、地域協議会や自治会などをベースに地域の課題を住民が主体的に解決するため、地域住民や関係団体・企業などのネットワークを構築し、それを支える専門職が連携するなかで、若年・壮年世代も含めて、支え合い・助け合い活動の広がりを進め、更なる指標値の改善を図っていく。
	目指す方向性							

【施策推進事業の考え方】

経常事業	削減に関する具体的な考え方	—
実施計画事業	資源投入の考え方	地域住民が主体となった課題解決に向けた支え合い・助け合いの地域福祉活動の広がりを進めるため、小学校区単位を中心にふくし座談会を実施している。また、支え合い活動の担い手を増やすため、平成29年度から「こまき支え合いいきいきポイント推進事業」を導入し、担い手の継続ややりがいの醸成に努めると共に、地域ポイントについては当面は、地域協議会での困りごと支援のみにポイントを付与し、まずは地域協議会での福祉活動の推進を目指しているところである。 したがって、事業に関する指標等の分析や支え合い活動の重要性などを考慮すると、資源投入について拡大する必要があると判断している。

展開方向1	名称		地域福祉活動に参加する担い手を育成・確保します						
	目的		○地域福祉活動に参加している人を増やします。						
	所管課		福祉総務課						
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
ボランティアセンターへの相談件数	件	実績	1,639 (H26年度)		2,101	2,700	3,513	<p>指標の値は、全体としては目指す方向性のおり増加傾向にある。</p> <p>その主な要因は、各種講座やボランティア勉強会といったボランティア活動を支援するセンターの活動により、ボランティア活動をする者や関心がある者からの、センターの支援、助言への期待が年々高まっていることの現われであると考ええる。また、同一相談者から複数案件について問合せがあった場合、その案件数を計上することから、ボランティアに関する疑問や取組が多角的になっていることも一因と考える。</p>	<p>今後の指標値の見通しであるが、指標値に関連する社会福祉協議会(社協内にセンターあり)の認知度が、増加していることから、今後もセンターがボランティア活動への支援を適切に継続していけば、当該指標値は目指す方向性のおり増加傾向にあると分析する。</p> <p>今後の対応であるが、本市としては、地域福祉活動に参加している人たちを増やしていくために、センターがボランティア活動に関わる人たちにとって相談しやすく、適切な支援が行える体制を維持していくように、必要な補助をボランティア活動等助成事業を通じて継続して、更なる指標値の改善を図っていく方針である。</p>
		目指す方向性							
ボランティアセンター登録者数	人	実績	4,829	4,543	4,299	3,991	4,138	<p>指標の値は、全体としては目指す方向性とは逆に減少傾向にある。</p> <p>その主な要因は、多くの構成員を持つ登録団体の解散などと考ええる。また、H29年度の指標値が増加しているのは、構成員が多数いる大型グループが2団体登録したためであると考ええる。</p> <p>また、多様な地域福祉活動の担い手が必ずしもセンターの登録者数になるとは限らないため、複数の指標値の設定をすることで展開方向の進捗を計るものとする。</p>	<p>今後の指標値の見通しであるが、登録団体の37%が60代、28%が70代を主な構成員としており、健康状態にも個人差が見られる年代が中心となっている。新たに活動を始めた、規模を拡大する団体や、高齢等を理由に活動を停止する団体などが入り混じる中で、当該指標値が目指す方向性は横ばい傾向に進むと分析する。</p> <p>今後の対応であるが、本市としては、地域福祉活動に参加している人たちを増やしていくために、各種講座、ボランティア勉強会の継続や、コーディネイト機能の充実などをセンターで図って行けるように、必要な補助をボランティア活動等助成事業を通じて継続して、更なる指標値の改善を図っていく方針である。</p>
		目指す方向性							

展開方向2	名称	地域福祉活動を普及・拡大するための仕組みを整えます							
	目的	○地域の住民同士がお互いに支え合う地域福祉活動を推進します。 ○要介護者や障がい者(児)、妊産婦および乳幼児、ひとり暮らし高齢者世帯などの要援護者の支援体制を強化します。							
	所管課	福祉総務課							
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
地域福祉推進基礎組織の設立数	団体	実績	0	1	2	3	3	指標の値は、平成27年度から増加し、平成29年度は横ばいであった。 その要因は地域福祉推進基礎組織数について、地域協議会の福祉部会をカウントすることとしたことによります。	今後の指標値の見通しであるが、小学校区単位での福祉座談会の開催により福祉活動の必要性は理解が広がってきている。また、サロン活動などを通じたネットワークは形成されてきており、地域協議会の設立に合わせて、できるだけ速やかに地域福祉の取り組みが実施されるよう働きかけを強化することで、指標値は増加していくと考える。
		目指す方向性							
災害時避難行動要支援者台帳の登録者数	人	実績	924	2,218	2,327	2,395	2,424	指標の値は、全体としては目指す方向性のおり増加傾向にある。 その主な要因は、支援を必要とする、台帳登録該当者の増加にあると考える。 指標値に関連する、ひとり暮らし高齢者数が増加していることから裏付けられる。	今後の指標値の見通しであるが、指標値に関連する要介護認定者、ひとり暮らし高齢者数は今後も増加していくことから、今後も台帳登録該当者は増加へと推移することが予想され、それに併せて該当者への周知も継続していく。そのため今後とも、当該指標値は目指す方向性のおり増加傾向にあると分析する。 今後の対応であるが、地域の支援者へ提供する要支援者台帳の整備を継続するとともに、要支援者台帳を活用した地域活動の支援を推進する事により、更なる指標値の改善を図っていく方針である。
		目指す方向性							

展開方向3	名称 地域福祉活動団体などを支援します									
	目的 ○地域福祉活動団体などの活動を支援します。									
	所管課 福祉総務課									
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容	
ふれあい・いきいきサロンの数	団体	実績	22	29	35	49	62	<p>指標の値は、全体としては目指す方向性のおり増加傾向にある。</p> <p>その主な要因は、数年来の市・社会福祉協議会・市民活動団体による居場所づくりに力点を置いた地域住民への働きかけや開設支援の成果と考えている。</p>	<p>今後の指標値の見通しであるが、居場所づくりに力点を置いた働きかけの効果が継続していくと想定されるので、引き続き、増加傾向で推移すると予想する。</p> <p>そのため、今後、当該指標値は地区会館設置数レベルまでは目指す方向性のおり増加傾向にあると分析する。</p> <p>今後の対応であるが、サロン開催日数の増加を始め、介護予防の取り組みや支え合い・助け合い活動の場として、地域住民に活用される居場所となるようサロン機能の強化に努め、生活支援体制整備事業を始めとする支援を推進することで更なる指標値の改善を図っていく。</p>	
		目指す方向性								
ふれあいセンターの利用者数	人	実績	35,880	36,340	35,984	35,088	39,863	<p>指標の値は、全体としては目指す方向性のおり増加傾向にある。</p> <p>その主な要因は、地域福祉意識が高まってきたことにより、利用者数は増減を繰り返しながらも、団体の活動が活発に行われていることにあると考えている。</p> <p>また、H29年度は特に会議、勉強会等の利用回数及びその参加者が増加したことにより、利用者数が増加したことが要因と考える。</p>	<p>今後の指標値の見通しであるが、地域福祉の活性化に伴う施設利用者の増加は継続し、目指す方向性のおり増加傾向で推移すると分析する。</p> <p>今後の対応であるが、活動団体や各種事業への参加者が増加することは、地域福祉の活性化につながるものであることから、ふれあいセンターを適切に管理運営し、利用しやすいセンターづくりに努め、更なる指標値の改善を図っていく方針である。</p>	
		目指す方向性	